

CHIGASAKI 市立病院だより

第49号

平成13年3月発行

発行/茅ヶ崎市立病院

茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL52-1111

身近な病気シリーズ 9



最近の全身麻酔

麻酔科 宮崎弘志

全身麻酔、多くの方がこの麻酔方法の名前をご存知だと思います。とても優れた麻酔です。眠ってしまって、目が醒めれば全て終わっている、これならずいぶんと楽です。今回紙面を頂きましたから、最近登場してきた新しい全身麻酔についてお話ししましょう。

【新しい全身麻酔薬】

全身麻酔は長い間、ガス状の麻酔薬を吸入して使っていました。今でも多くの場合、このガスの麻酔薬を使いますが、近頃は新顔も登場してきました。点滴に混ぜて使う麻酔薬です。

この薬はガスの麻酔薬よりも急速に効果をあらわします。しかも、効果が消失するのが早いため、持続的に使う事によって麻酔状態を維持できます。薬剤を中止すれば10分ほどで覚醒する、非常に調節性に富んだ麻酔薬と言えます。また、手術中に起こる有害な反射運動が（例えば、咳をする、などでしょうか）少ないという性質もあり、特に喘息をお持ちの患者様にとっては、発作を誘発しないという大きな利点を持ちます。

また、人にもよりますが、楽しい夢を見る事があるなど、ここ数年で広く使われるようになりました（別に楽しい夢を見るために使うわけではないのですが）。

大豆油を含んでいますので、見た目が牛乳みたいなのですが、良いお薬です。欠点は少し刺激性があって、点滴された血管が痛むことがあることでしょうか。

【新しい気道確保器具】

ほかにも新しい動きがあります。全身麻酔を行う場合、多くの場合、呼吸の状態が不安定になることがあります。また、筋弛緩薬（近頃話題になりましたが...）を使って、筋肉の働きを抑えないと手術が出来ない場合があります。そのため、気管内にプラスチックの管を入れて人工呼吸を行っていました。しかし、全ての手術で筋弛緩薬を必要とするわけではありません。ところが、この気管内に入れる管そのものが大きな刺激となって、手術中に咳が止まらなくなることがあります。そのために筋弛緩薬を使わざるを得なくなる、と不必要とも言える薬の使い方が必要でした。

この状況を大きく変えたのが、10年ほど前に開発された全く新しい器具、ラリンジアルマスクです。ラリンジアル、と言うのは喉頭の、という意味ですが、スプーンのような形をした呼吸の補助具です。気管の中まで入れていた管とほとんど同じ事が出来ますが、普段物が通るのどの中までしか入れませんから、むせたりする事が殆どありません。不必要な筋弛緩薬も必要ありませんし、自分の呼吸が安定していればそれに任せてしまう事ができます。自発呼吸で行う事が出来れば手術後の回復も早く、合併症も少ない、と利点は多く、世界的に見ても使用する麻酔科医は劇的に増えています。

もちろん、全ての手術で使えるわけではありません。人工呼吸をする時の確実性、という点ではやや劣りますし、上腹部の手術には適していません。

それでも、それらの欠点を補っても利点が勝る場合も多く、今後、日帰り手術などの増加に伴ってより多くの手術で使われるようになるでしょう。これは、言葉を変えるとより患者様に優しい麻酔法が増えるという事にほかなりません。

【新しい術後鎮痛】

術後の疼痛は手術を受けた後の最も心配な事柄の一つでしょう。たとえ、手術中は何一つわからずに終わったとしても、目が醒めた途端に痛いのはたまりません。これでは優しくない麻酔です。

ここ10年で大きく使用が増えたものが術後の疼痛軽減に使われる使い捨てポンプです。この原理は簡単なもので、ゴムの風船の中に鎮痛薬を入れて、風船のしぼむ力を利用したポンプです。硬膜外麻酔、という脊髄周辺に麻酔薬をまく管を入れて行う麻酔を併用していた場合は、その同じ管から鎮痛薬を送り込む事によって非常に効率的に鎮痛を行う事が出来ます。

また、そのような管が無くても、点滴の中にこの鎮痛薬を持続的に混ぜる事によってほぼ同じような効果を期待できます。さらにこの仕組みを一步すすめて、痛いときには自分で追加のお薬が送り込める仕組みも現れました。痛みはいつも一定というわけではありません。やはり波があります。波の山に薬の量を合わせると谷に来た時には多すぎるようになります。逆に谷に合わせると痛みがでます。ですから、痛みの程度に合わせて、自分で薬を調節できるような仕組みが最も優れているのです。

【当院の麻酔科】

当院でも、この様な器具や薬剤を使って手術が安全でより快適なものになるように努力しております。また、手術をするその部分だけを麻酔する局所麻酔以外の手術に関しては、全ての麻酔を三人の麻酔科医が担当しております。

手術室の中にばかりおりますので、なかなか皆様とは接点の無い麻酔科医ですが、今後は痛みを専門に治療するペインクリニックも外来として開設予定です。

もちろん、皆様とはお会いすることない（つまり、手術など受け無いで済めば）のが一番ですが、もしも、「残念ながら」手術が必要になった時にはお話しに上がります。

分からない事、不安な事、ございましたらどんどん、お話し下さい。



Copyright © 2000 - 2003 Chigasaki Municipal Hospital. All Rights Reserved.